

草加市立病院泌尿器科におけるロボット支援腹腔鏡下手術

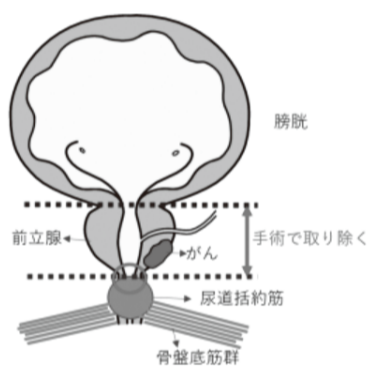
泌尿器科部長 吉永 敦史

身体的負担が少なく、繊細で正確な手術を実現

ロボット支援下手術は、鏡視下手術(腹腔鏡下手術や胸腔鏡下手術)とロボット機能の長所を併せ持っています。術者は、患者に触れずに、離れたところで3Dモニター画面を見ながらハンドルやフットペダルを操作。その手足の動きがロボットに正確に伝わり、アームや内視鏡が連動します。患者さんの身体への負担が減るのはもちろん、広い視野を確保した繊細かつ正確な手術が可能となります。従来の開腹による前立腺全摘術に比べ、手術時間は大幅に短縮され、出血量も大幅に減少しています。特に骨盤内の悪性腫瘍手術には大きなメリットがあると思われます。

患者さんのメリット

- ・ 傷口が小さく、手術痕が目立たない
- ・ 出血量が極端に少ない
- ・ 術後の回復が早く、退院時期も早まる
- ・ 身体的機能が保てる可能性が高い



前立腺を摘出したのち、膀胱と尿道を糸で縫い合わせる作業もロボットを用いて行います。

泌尿器科における対応疾患

日本においては、2012年に前立腺全摘術(前立腺がん)がロボット支援下手術として初めて保険収載されました。次いで、2016年になり腎部分切除術(腎臓がん)が、その後、膀胱悪性腫瘍手術(膀胱がん：2018年4月から)、腎盂形成(2020年4月)、根治的腎摘除術(2022年4月)、腎尿管全摘除術(2022年4月)、副腎摘除術(2022年4月)の順で保険収載されています。

当科では現在のところ、前立腺全摘術のみロボット支援下手術を行っています。

草加市立病院泌尿器科での手術件数

2023年5月からロボット支援腹腔鏡下前立腺摘除術を開始し、他の手術との兼ね合いで、月に2件を目安に行っております。2023年9月末の時点で10件となっております。

乳がん患者サロン「ひまわり」再開しました!

ひまわりの成り立ち

2016年、患者さんやご家族、医療スタッフがお互いに情報交換をしながら交流を深め、乳がんについての正しい知識を学び相互にサポートしあえる場所となるよう「ひまわり」を立ち上げました。



実際の「ひまわり」の様子

【対象の方】

乳がんで当院外来通院中・入院治療中、治療を予定している患者さんとそのご家族

サロンの内容

乳がんについての勉強会の開催や、テーマに沿って自由にお話をしています。

同じ病気を経験した患者さん同士だからわかる病気の事、不安な気持ちや症状等を自由に語り合い、共有したり情報交換できる場所です。

看護師や医師、薬剤師等医療者も参加していますので、日常で気になっていることや、治療中の不安等、ご相談いただくこともできます。1人で悩まずに、ぜひお話ししてみませんか？

広報そうかで開催予定をお知らせしますのでご確認ください。



「ひまわり」を運営している医療スタッフ